

# 葛飾区ごみ性状調査

## 報告書

(概要版)

平成29年12月

葛 飾 区



# 目 次

<b>第 1 部</b>	<b>ごみ性状調査</b>	<b>1</b>
<b>第 1 章</b>	<b>調査概要</b>	<b>1</b>
1.1	調査の目的	1
1.2	調査の内容	1
(1)	調査対象	1
(2)	調査期間	1
(3)	調査分析場所	1
(4)	調査項目	1
<b>第 2 章</b>	<b>調査結果</b>	<b>3</b>
2.1	組成分析結果	3
(1)	燃やすごみ	3
(2)	燃やさないごみ	4
(3)	プラスチック製容器包装	6
(4)	資源(雑誌・雑紙)	6
2.2	プラスチック製容器包装の汚れ調査	7
(1)	燃やすごみ	7
(2)	燃やさないごみ	7
(3)	プラスチック製容器包装	8
2.3	見かけ比重	9
2.4	過去の調査結果との比較	10
(1)	燃やすごみ(家庭ごみと事業系ごみの合計)	10
(2)	燃やさないごみ(家庭ごみと事業系ごみの合計)	10
(3)	プラスチック製容器包装	11
2.5	適正排出率と資源等混入率	12
(1)	燃やすごみ(家庭ごみと事業系ごみの合計)	12
(2)	燃やさないごみ(家庭ごみと事業系ごみの合計)	12
(3)	プラスチック製容器包装	13
<b>第 3 章</b>	<b>目標達成に必要な分別協力率</b>	<b>14</b>
(1)	平成 28 年度の品目別ごみ量推計	14
(2)	目標達成後の品目別ごみ量推計	15

<b>第2部 食品ロス調査</b> .....	<b>16</b>
<b>第1章 調査概要</b> .....	<b>16</b>
1.1 調査の目的.....	16
1.2 調査の内容.....	16
(1) 生ごみの分類.....	16
(2) 食品ロスの割合推計.....	16
(3) 「直接廃棄 100%」、「直接廃棄 50%以上」の細分類.....	16
<b>第2章 調査結果と解析</b> .....	<b>17</b>
2.1 生ごみの割合.....	17
2.2 直接廃棄の詳細.....	17
(1) 賞味期限・消費期限.....	17
(2) 品目.....	18
(3) 容器の重量.....	18
(4) 容器の種類.....	19
2.3 葛飾区の生ごみ量の推計.....	19

# 第 1 部 ごみ性状調査

## 第 1 章 調査概要

---

### 1.1 調査の目的

葛飾区一般廃棄物処理基本計画(第 3 次)改定版の適正な推進に向けて、改定から中間年度を迎える時期において、ごみの排出状況を確認する必要があるため、本調査を実施した。

### 1.2 調査の内容

燃やすごみ、燃やさないごみ、プラスチック製容器包装の分別度合いや、資源物の混入を調査した。また、資源(雑誌・雑紙)の比率を調査した。

#### (1) 調査対象

##### ① 調査地区・集積所

調査対象集積所を選定するため、クラスター分析により地域を 6 地域に分類した。クラスター分析に使用したパラメータは、①一戸建て住宅の人口密度、②1～5 階建住宅の人口密度、③6 階建以上住宅の人口密度、④事業所の従業員密度、⑤商業系事業所(卸売り・小売業、飲食・宿泊業)の従業員密度である。

各地域ごとの居住人口のバランス等を考慮して表 1-1-1 に示す 30 集積所を選定した。

##### ② 分析対象分別区分

本調査では、「燃やすごみ」、「燃やさないごみ」、「プラスチック製容器包装」、「資源(雑誌・雑紙)」を対象とし、1 集積所あたり各 1 回を調査対象とした。

#### (2) 調査期間

調査は平成 29 年 10 月 2 日(月曜日)～14 日(土曜日)(8 日(日曜日)は除く)に実施した。

#### (3) 調査分析場所

分析作業は、東京二十三区清掃一部事務組合葛飾清掃工場で実施した。

#### (4) 調査項目

- ① 組成分析項目ごとの重量の計測
- ② プラスチック製容器包装の汚れ調査
- ③ 見かけ比重の測定

表 1-1-1 調査対象地区

クラスター番号	地域の特徴	対象地域	対象地域の人口(人)	集積所番号	対象集積所
1	大型駅周辺の商業地域	亀有3丁目、金町6丁目、新小岩1丁目、東金町1丁目、立石1・5丁目	23,503	1	亀有3丁目
				2	新小岩1丁目
				3	立石1丁目
2	駅周辺の準商業地域	お花茶屋1丁目、亀有5丁目、金町1丁目、四つ木2・5丁目、小菅4丁目、新小岩2丁目、青戸3丁目、堀切3丁目、立石4・7丁目	32,502	4	立石4丁目
				5	立石7丁目
				6	四つ木2丁目
3	大規模団地などが多い地域	亀有1丁目、高砂4丁目、柴又2丁目、新宿6丁目、西新小岩1丁目、青戸7丁目、東四つ木2丁目、東新小岩1～3丁目、南水元3丁目、白鳥4丁目	41,577	7	亀有1丁目
				8	柴又2丁目
				9	東新小岩1丁目
4	人口密度が高く事業活動が活発な地域	奥戸3・4丁目、高砂3・5丁目、新宿3・4丁目、西新小岩4丁目、青戸4～6丁目、東四つ木4丁目、東新小岩5・7丁目、東立石2・3丁目、白鳥1～3丁目、立石2・3・6丁目	62,002	10	青戸4丁目
				11	白鳥1丁目
				12	白鳥2丁目
				13	高砂3丁目
				14	新宿3丁目
5	一戸建て・低中層集合住宅地域 ④と⑥の中間的な地域	お花茶屋2・3丁目、奥戸1・2・5～7丁目、鎌倉1～4丁目、亀有2・4丁目、金町2～5丁目、高砂2・7・8丁目、細田1・4・5丁目、四つ木4丁目、柴又1・3・4・7丁目、小菅2・3丁目、新宿1丁目、新小岩3・4丁目、水元1～3・5丁目、西亀有1～4丁目、西新小岩5丁目、西水元5丁目、青戸1・8丁目、東金町2～5丁目、東新小岩4・6・8丁目、東水元1丁目、東堀切1～3丁目、東立石1・4丁目、南水元1・4丁目、宝町1・2丁目、堀切1・2・4～8丁目、立石8丁目	212,767	15	東新小岩7丁目
				16	青戸1丁目
				17	奥戸2丁目
				18	金町4丁目
				19	鎌倉2丁目
				20	宝町1丁目
				21	西亀有2丁目
				22	東金町3丁目
				23	東金町5丁目
				24	堀切1丁目
6	人口密度が低く事業活動があまり活発ではない地域	奥戸8・9丁目、高砂1・6丁目、細田2・3丁目、四つ木1・3丁目、柴又5・6丁目、小菅1丁目、新宿2・5丁目、水元4丁目、西新小岩2・3丁目、西水元1～4・6丁目、青戸2丁目、東金町6～8丁目、東四つ木1・3丁目、東水元2～6丁目、南水元2丁目	70,562	25	奥戸9丁目
				26	柴又5丁目
				27	高砂1丁目
				28	西水元2丁目
				29	東水元5丁目
合計			442,913	30	細田2丁目

## 第2章 調査結果

### 2.1 組成分析結果

#### (1) 燃やすごみ

##### ① 家庭ごみ

家庭ごみの燃やすごみは、紙類が35.1%と最も高く、次いで厨芥が31.2%、プラスチック類が12.3%と続いている。

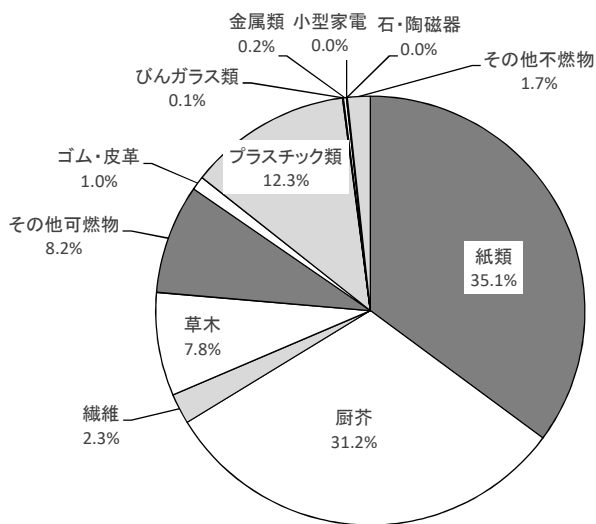


図 1-2-1 家庭ごみの燃やすごみの組成(概要)

##### ② 事業系ごみ

事業系ごみの燃やすごみは、厨芥が61.8%と最も高く、次いで紙類が28.7%、ゴム・皮革が5.2%と続いている。

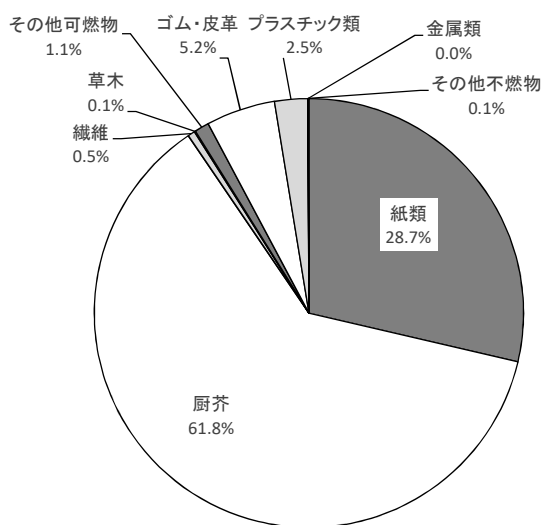


図 1-2-2 事業系の燃やすごみの組成(概要)

### ③家庭ごみと事業系ごみの合計

家庭ごみと事業系ごみを合計した燃やすごみは、紙類が 34.5%と最も高く、次いで厨芥が 34.3%、プラスチック類が 11.3%と続いている。

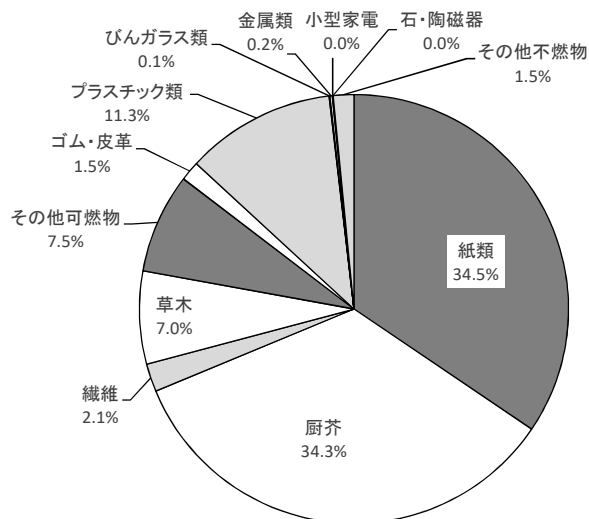


図 1-2-3 家庭ごみと事業系ごみの合計の燃やすごみの組成(概要)

## (2) 燃やさないごみ

### ①家庭ごみ

家庭ごみの燃やさないごみは、金属類が 26.5%、次いで石・陶磁器が 17.2%、びんガラス類が 15.4%と続いている。

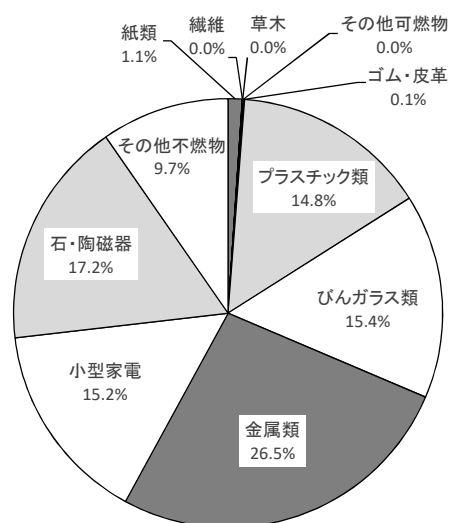


図 1-2-4 家庭ごみの燃やさないごみの組成(概要)



## ②事業系ごみ

事業系ごみの燃やさないごみは、びんガラス類が 58.4%と最も高く、次いで金属類が 38.1%、紙類が 3.1%と続いている。

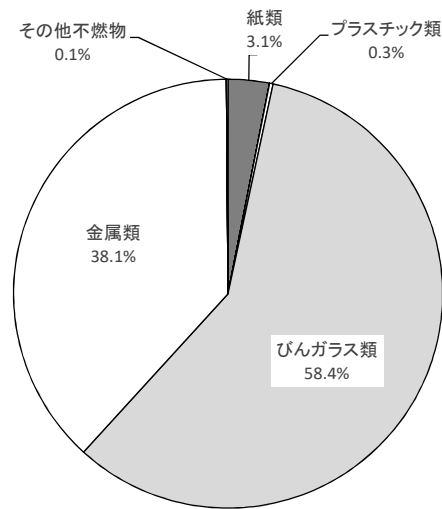


図 1-2-5 事業系ごみの燃やさないごみの組成(概要)

## ③家庭ごみと事業系ごみの合計

家庭ごみと事業系ごみを合計した燃やさないごみは、金属類が 27.3%と最も高く、次いでびんガラス類が 18.4%、石・陶磁器が 16.0%と続いている。

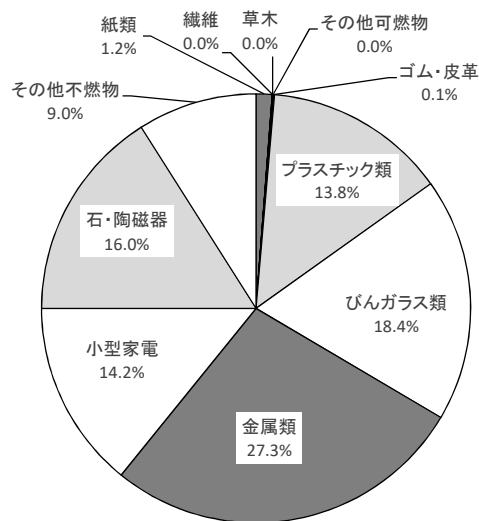


図 1-2-6 家庭ごみと事業系ごみの合計の燃やさないごみの組成(概要)

### (3) プラスチック製容器包装

プラスチック製容器包装は、プラスチック類が 92.9%、プラスチック類以外のものとして、紙類が 2.9%、厨芥 1.1%など合計 7.1%含まれている。

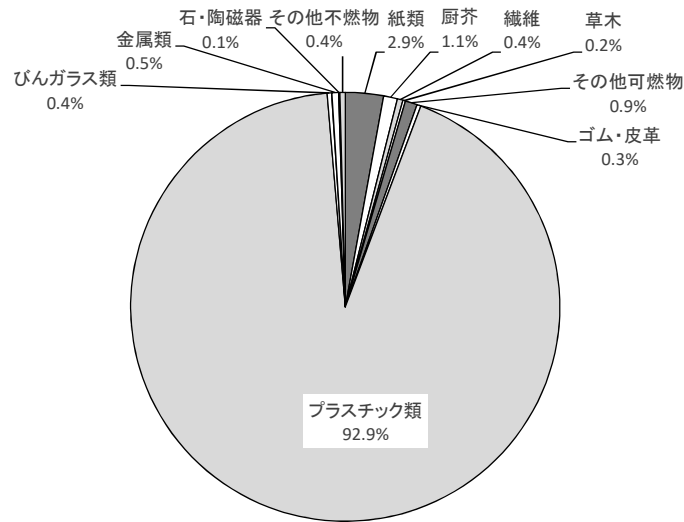


図 1-2-7 プラスチック製容器包装の組成(概要)

### (4) 資源(雑誌・雑紙)

資源(雑誌・雑紙)は、紙類が 99.1%、紙類以外のものは 0.9%である。

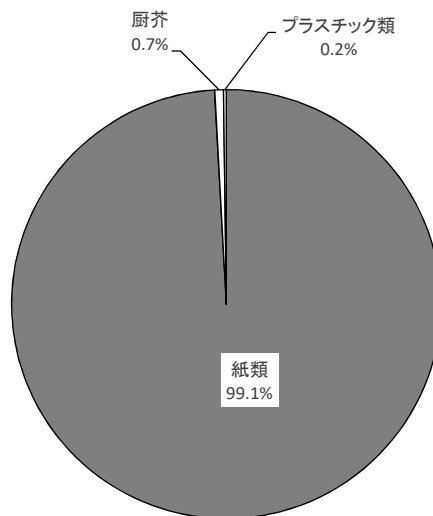


図 1-2-8 資源(雑誌・雑紙)の組成(概要)

## 2.2 プラスチック製容器包装の汚れ調査

### (1) 燃やすごみ

家庭ごみの燃やすごみ中のプラスチック製容器包装における組成は、包装フィルムが34.4%、パック・カップ類が25.4%、レジ袋が17.8%となっている。また、プラスチック製容器包装中には、40.4%のきれいなものが含まれている。

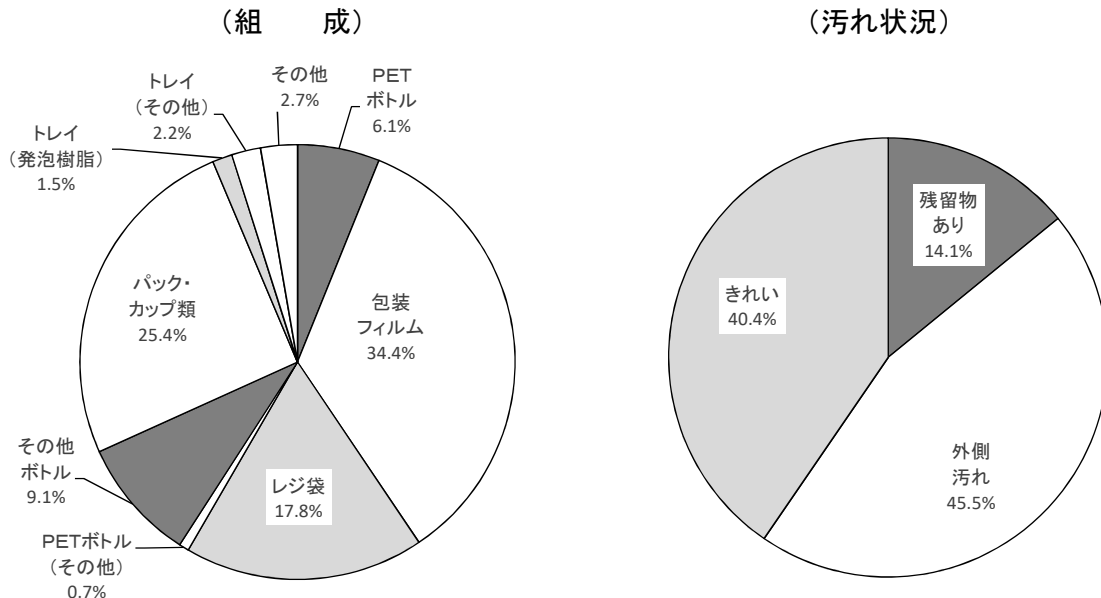


図 1-2-9 家庭ごみの燃やすごみ中のプラスチック製容器包装汚れ状況

### (2) 燃やさないごみ

家庭ごみの燃やさないごみ中のプラスチック製容器包装における組成は、その他ボトルが45.9%、レジ袋が28.2%、包装フィルムが19.2%となっている。また、プラスチック製容器包装中には、43.5%のきれいなものが含まれている。

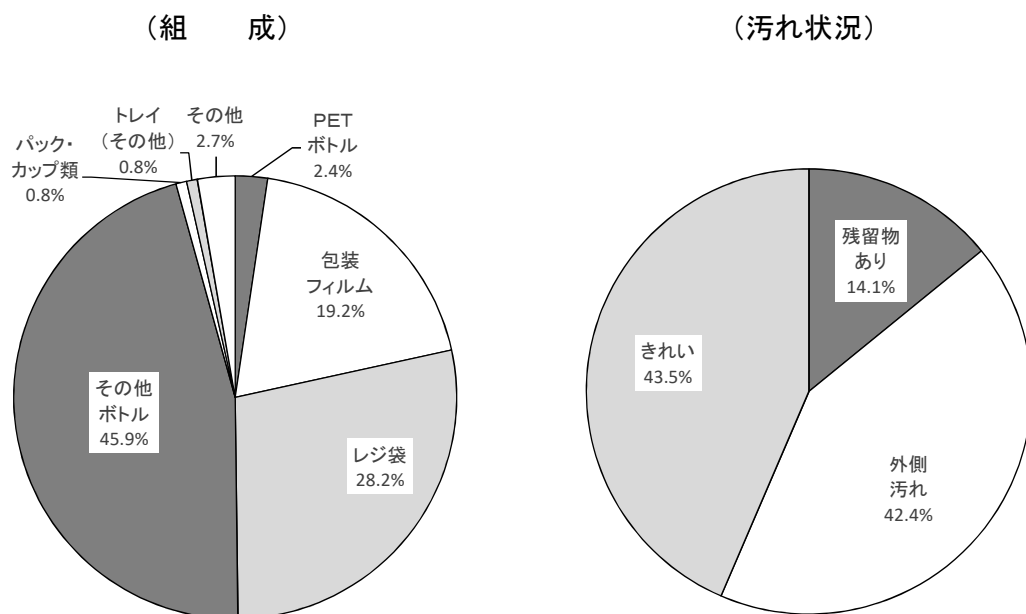


図 1-2-10 家庭ごみの燃やさないごみ中のプラスチック製容器包装汚れ状況

### (3) プラスチック製容器包装

プラスチック製容器包装中のプラスチック製容器包装における組成は、パック・カップ類が37.1%、包装フィルムが30.1%、その他ボトルが10.2%となっている。また、プラスチック製容器包装中には、外側汚れが12.8%と残留物ありが2.5%含まれている。

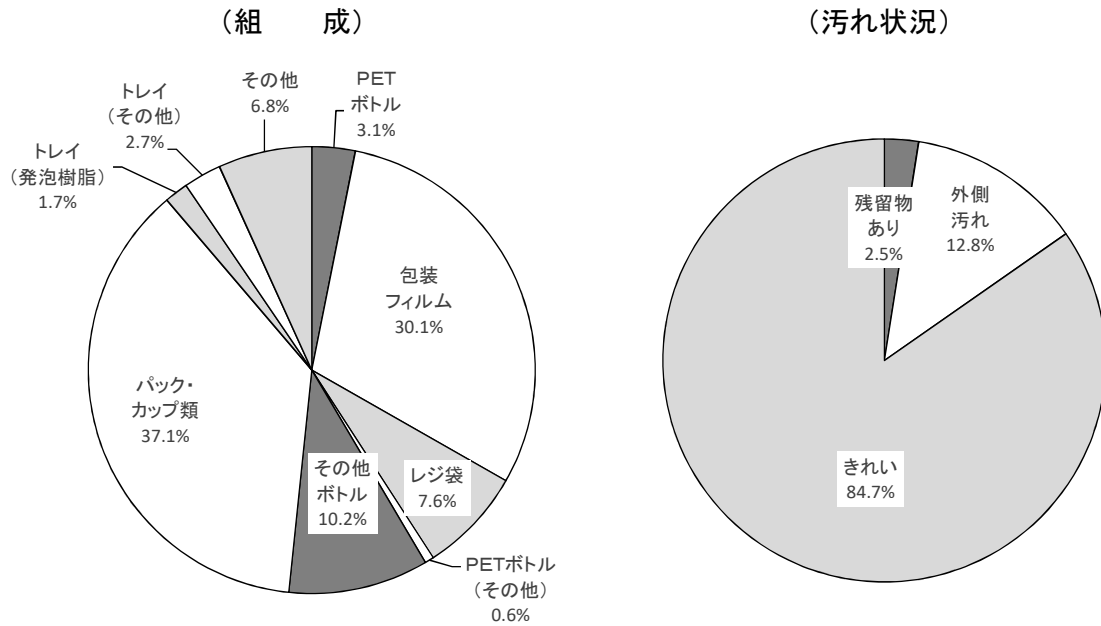


図 1-2-11 プラスチック製容器包装中のプラスチック製容器包装汚れ状況

## 2.3 見かけ比重

分析項目別の見かけ比重測定結果を図 1-2-12 に示す。

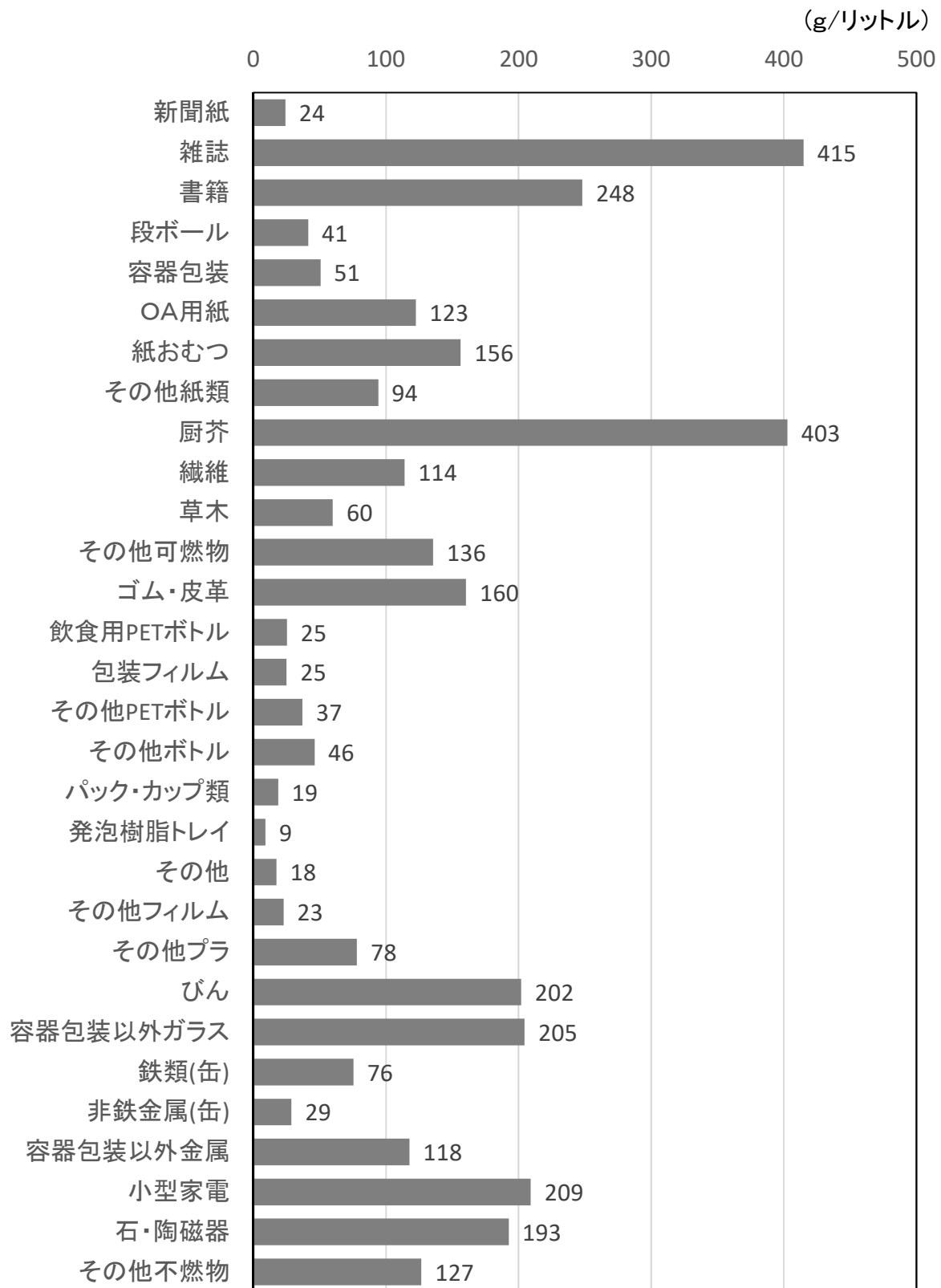


図 1-2-12 見かけ比重の調査結果

## 2.4 過去の調査結果との比較

本区では、平成20年度、21年度、24年度、26年度に組成調査を行っている。これらの過去の組成調査との比較を行った。

### (1) 燃やすごみ(家庭ごみと事業系ごみの合計)

平成26年度と比べて、本調査では紙類が7.6%増加し、厨芥が6.4%減少している。

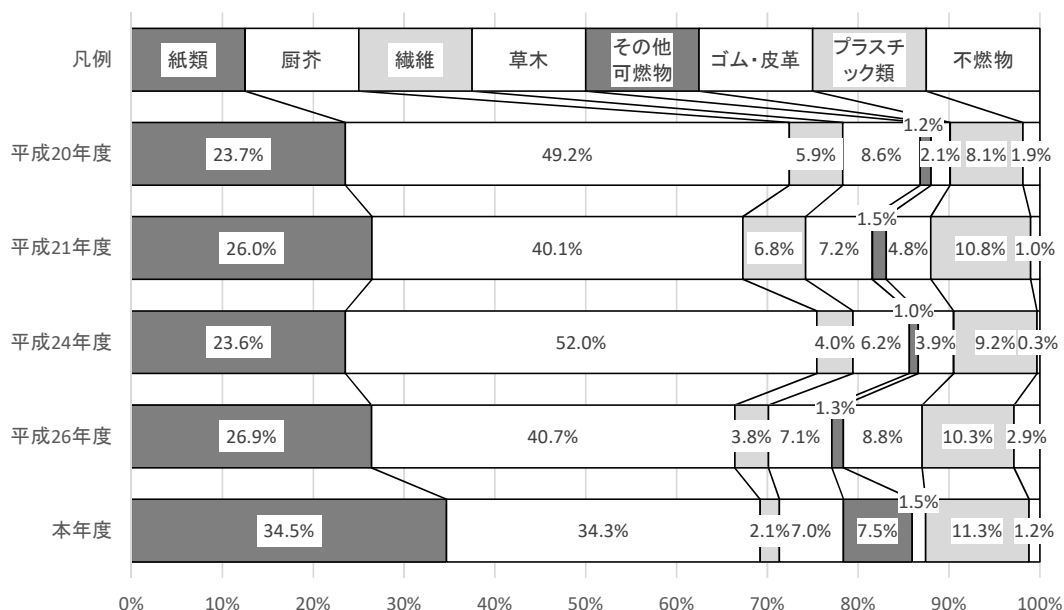


図 1-2-13 過去の調査結果との比較(燃やすごみ)

### (2) 燃やさないごみ(家庭ごみと事業系ごみの合計)

平成26年度と比べて、本調査ではプラスチック類が7.8%増加し、石・陶磁器が5.3%減少している。

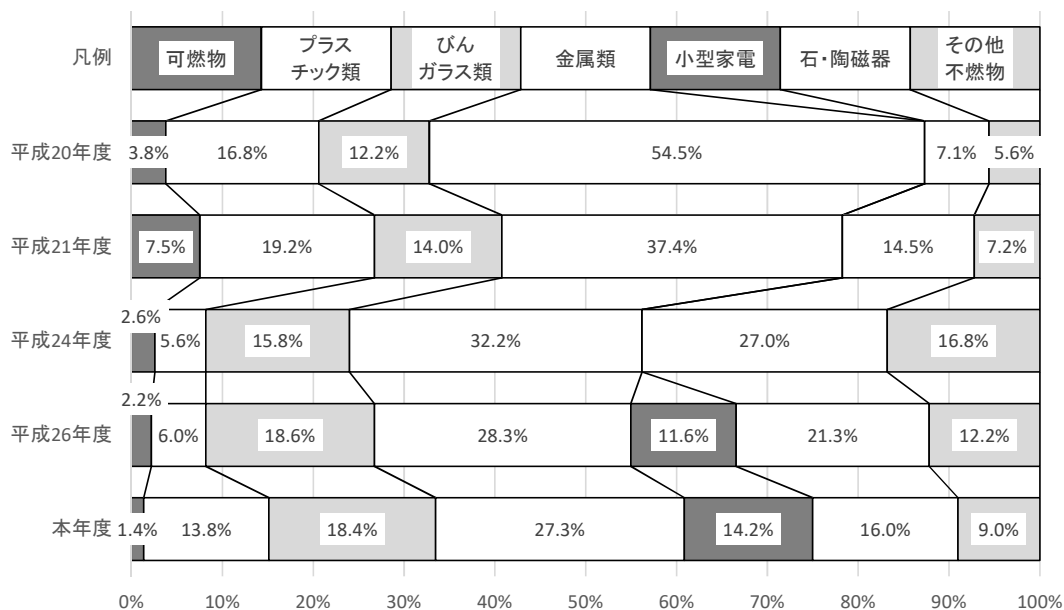


図 1-2-14 過去の調査結果との比較(燃やさないごみ)

### (3) プラスチック製容器包装

平成 26 年度と比べて、本調査では容器包装以外のプラスチックが 5.9%増加し、可燃物が 3.7%減少している。

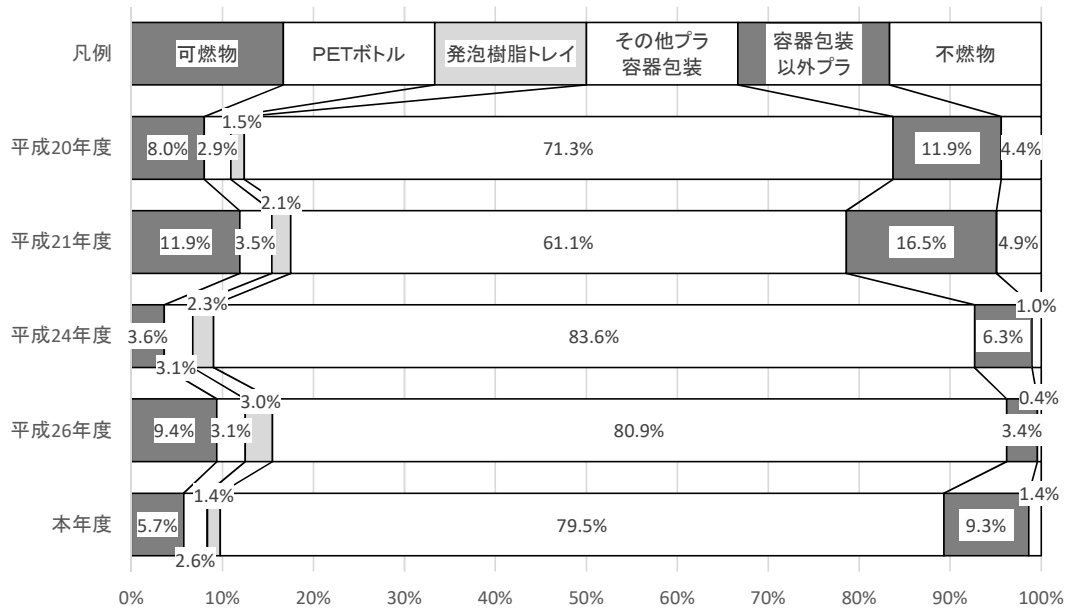


図 1-2-15 過去の調査結果との比較(プラスチック製容器包装)

## 2.5 適正排出率と資源等混入率

調査結果から、分別区分ごとに適正に排出されている割合(適正排出率)及び資源等の混入率を算出した。

### (1) 燃やすごみ(家庭ごみと事業系ごみの合計)

燃やすごみの適正排出率は76.9%、混入物は23.1%で、その内訳は、燃やさないごみが1.8%、プラスチック製容器包装が6.7%、資源が14.6%である。

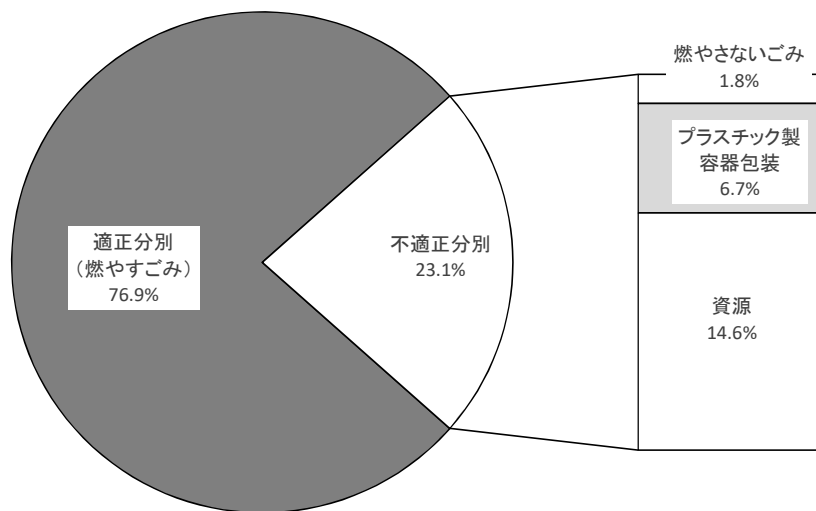


図 1-2-16 適正排出率と資源等混入率(燃やすごみ)

### (2) 燃やさないごみ(家庭ごみと事業系ごみの合計)

燃やさないごみの適正排出率は79.0%、混入物は21.0%で、その内訳は、燃やすごみが13.0%、プラスチック製容器包装が1.1%、資源が6.9%である。

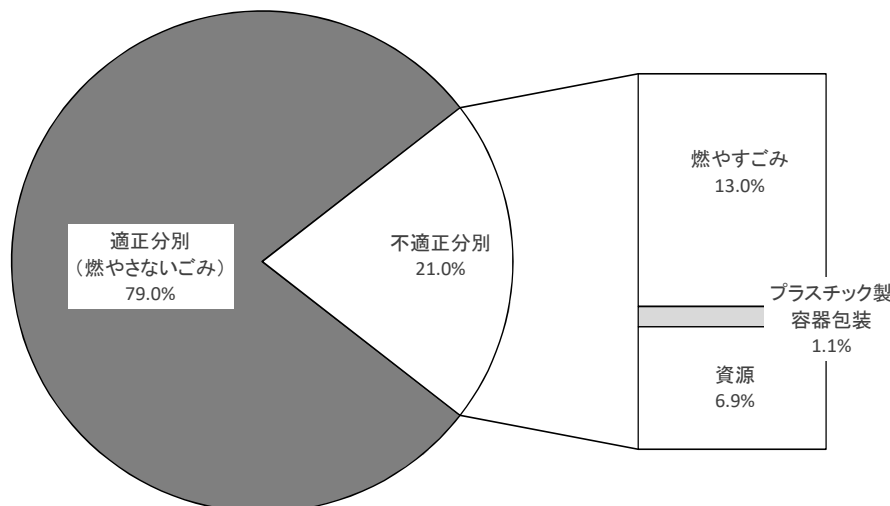


図 1-2-17 適正排出率と資源等混入率(燃やさないごみ)



### (3) プラスチック製容器包装

プラスチック製容器包装の適正排出率は79.5%、混入物は20.5%で、その内訳は、燃やすごみが14.2%、燃やさないごみが0.9%、資源が5.3%である。

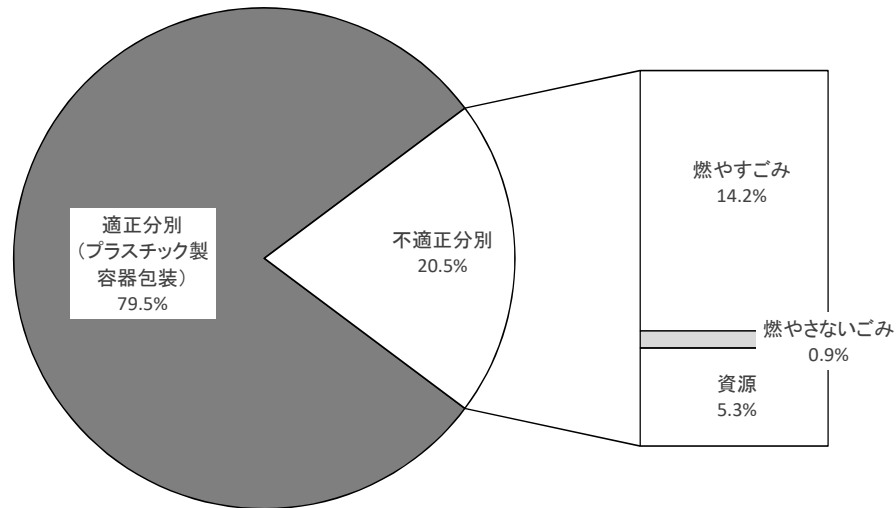


図 1-2-18 適正排出率と資源等混入率(プラスチック製容器包装)

### 第3章 目標達成に必要な分別協力率

葛飾区では、葛飾区一般廃棄物処理基本計画(第3次)改定版において、平成32年度の区民1人1日あたりの区収集ごみ量450g/人日という目標を設定している。

本調査で明らかになった、燃やすごみと燃やさないごみへの資源物の混入状況、平成28年度のごみ量の実績値より、目標達成に必要な分別協力率について推計した。

#### (1) 平成28年度の品目別ごみ量推計

平成28年度の区収集ごみ量は84,411tで、人口と年間日数で除した区民1人1日あたりの区収集ごみ量は507g/人日である。

表1-3-1 平成28年度の区収集ごみ量

		単位:t/年
分別区分		平成28年度
ごみ	燃やすごみ	78,010
	燃やさないごみ	3,486
	粗大ごみ	2,914
	ごみ合計	84,411
人口(人)		456,337
区民1人1日あたりごみ量(g/人日)		507

平成28年度の燃やすごみと燃やさないごみの量に、本調査で把握した組成割合を乗じることで推計した資源量は、燃やすごみが16,626t、燃やさないごみが279t、合計で16,905tである。

表1-3-2 平成28年度の品目別ごみ量推計

			単位:t/年			
			燃やすごみ	燃やさないごみ	粗大ごみ	合計
資源	紙類	新聞紙	1,419	0		1,419
		雑誌	1,941	0		1,941
		書籍	453	0		453
		段ボール	704	28		732
		容器包装	2,791	3		2,794
		OA用紙	1,759	0		1,759
		雑紙	1,817	0		1,818
	PETボトル	349	1		350	
	発泡樹脂トレイ	82	0		82	
	飲食用びん	27	138		164	
	飲食用缶	33	69		102	
	プラスチック製容器包装	5,251	40		5,291	
	小計		16,626	279		16,905
	可燃物		59,996	455		60,451
不燃物		1,388	2,753		4,141	
粗大物				2,914	2,914	
合計		78,010	3,486	2,914	84,411	
資源の混入率		21.3%	8.0%			

## (2) 目標達成後の品目別ごみ量推計

一方、目標値は450g/人日であることから、粗大ごみを含む区収集ごみ量全体で11.2%のごみ減量が必要である。これに区収集ごみ量84,411tを乗じると、目標達成のためには9,457tの更なる減量が必要である。

その結果、分別協力率の向上で目標値を達成する場合には、燃やすごみと燃やさないごみに混入している資源物の55.9%を減量する必要がある。

表 1-3-3 目標達成に必要な資源物の適正分別割合

1人1日あたりの区収集ごみ量(g/人日)	平成28年度	A	507
	目標値	B	450
目標達成に必要な減量率		C=B/A	11.2%
区収集ごみ量(t/年)		D	84,411
目標達成に必要な減量ごみ量(t/年)		E=D*C	9,457
燃やすごみと燃やさないごみに含まれる資源量(t/年)		F	16,905
目標達成に必要な資源物の適正分別割合		G=E/F	55.9%

目標値を達成した場合のごみ量は、燃やすごみが68,709t、燃やさないごみが3,330tとなる。また、資源物の混入率は、燃やすごみが現状の21.3%から10.7%、燃やさないごみが現状の8.0%から3.7%に減少することになる。

表 1-3-4 目標達成後の品目別ごみ量推計

		燃やすごみ	燃やさないごみ	粗大ごみ	合計
資源	紙類	新聞紙	625	0	625
		雑誌	855	0	855
		書籍	200	0	200
		段ボール	310	12	322
		容器包装	1,230	1	1,231
		OA用紙	775	0	775
		雑紙	801	0	801
	PETボトル	154	0	154	
	発泡樹脂トレイ	36	0	36	
	飲食用びん	12	61	72	
	飲食用缶	15	30	45	
	プラスチック製容器包装	2,313	18	2,331	
	小計	7,324	123	7,447	
	可燃物	59,996	455	60,451	
	不燃物	1,388	2,753	4,141	
粗大物			2,914	2,914	
合計	68,709	3,330	2,914	74,953	
資源の混入率	10.7%	3.7%			

# 第2部 食品ロス調査

## 第1章 調査概要

---

### 1.1 調査の目的

環境省では、廃棄物処理法の基本方針において、家庭から排出される食品ロスの発生量を調査している市区町村数について、平成30年度に200市区町村に増大させる目標を設定している。葛飾区のごみ性状調査において、家庭から排出される燃やすごみに含まれる生ごみの食品ロスについて組成割合を算定し、葛飾区における食品ロス発生量を推計することが、本調査の目的である。

### 1.2 調査の内容

本調査は、葛飾区ごみ性状調査で排出された生ごみを対象に、食品ロスについて詳細に調査した。

#### (1) 生ごみの分類

葛飾区ごみ性状調査では、未使用のまま廃棄された生ごみを「直接廃棄」、調理後の食べ残しを「食べ残し」、調理の際に出た調理くずを「調理くず」として分類した。本調査では、「直接廃棄」された品目について、「直接廃棄100%」、「直接廃棄50%以上」、「直接廃棄50%未満」に分類した。

#### (2) 食品ロスの割合推計

葛飾区ごみ性状調査では、6地域ごとに集計したデータを人口で加重平均を取って集計している。一方で、本調査による直接廃棄の分類は、単純平均で集計している。そのため、「直接廃棄」、「食べ残し」、「調理くず」の割合は葛飾区ごみ性状調査で推計した値を用い、「直接廃棄」を本調査の割合で按分して「直接廃棄100%」、「直接廃棄50%以上」、「直接廃棄50%未満」の割合を推計した。

#### (3) 「直接廃棄100%」、「直接廃棄50%以上」の細分類

「直接廃棄100%」、「直接廃棄50%以上」については、食品ロスの種類ごとに15種類に分類した。また、賞味期限と消費期限を回収日と比較して、「期限前廃棄」と「期限後廃棄」に分類した。

容器を取り除いて容器の重量を計量し、容器の割合を算定した。

## 第2章 調査結果と解析

### 2.1 生ごみの割合

家庭から排出される燃やすごみに占める生ごみの割合は 31.16%、内訳は、「直接廃棄」が 3.18%、「食べ残し」が 3.62%、「調理くず」が 24.35%である。「直接廃棄」の内訳は、「直接廃棄 100%」が 2.73%、「直接廃棄 50%以上」が 0.18%、「直接廃棄 50%未満」が 0.27%である。

表 2-2-1 生ごみの割合

区分		燃やすごみに占める割合	生ごみに占める割合
直接廃棄	直接廃棄100%	2.73%	8.78%
	直接廃棄50%以上	0.18%	0.58%
	直接廃棄50%未満	0.27%	0.86%
	小計	3.18%	10.22%
食べ残し		3.62%	11.63%
調理くず		24.35%	78.15%
合計		31.16%	100.00%

### 2.2 直接廃棄の詳細

#### (1) 賞味期限・消費期限

容器に記載されている賞味期限・消費期限を調査して、回収日と比較した。賞味期限が記載されているものが 29.00%、消費期限が記載されているものが 15.04%、不明のものが 55.96%である。不明なものが多いのは、賞味期限・消費期限の記載のない野菜・果物の割合が高かったためである。

期限前に廃棄されたものは、賞味期限が 1.21%、消費期限が 1.17%であり、ごくわずかである。

表 2-2-2 賞味期限・消費期限

区分		直接廃棄100%		直接廃棄50%以上		合計	
		重量(g)	割合	重量(g)	割合	重量(g)	割合
賞味期限	期限前	500.5	1.29%	0.0	0.00%	500.5	1.21%
	期限後	11,092.0	28.56%	421.0	16.32%	11,513.0	27.79%
	小計	11,592.5	29.84%	421.0	16.32%	12,013.5	29.00%
消費期限	期限前	483.5	1.24%	0.0	0.00%	483.5	1.17%
	期限後	5,160.5	13.29%	587.0	22.75%	5,747.5	13.88%
	小計	5,644.0	14.53%	587.0	22.75%	6,231.0	15.04%
不明		21,606.0	55.62%	1,572.0	60.93%	23,178.0	55.96%
合計		38,842.5	100.00%	2,580.0	100.00%	41,422.5	100.00%

## (2) 品目

品目別では、野菜が 30.69%で最も多く、次いで、果物 24.91%、米類 7.68%、パン類 5.77%などの順である。

表 2-2-3 品目別の割合

品目	直接廃棄100%		直接廃棄50%以上		合計	
	重量(g)	割合	重量(g)	割合	重量(g)	割合
野菜	11,708.5	30.14%	1,004.0	38.91%	12,712.5	30.69%
果物	10,279.5	26.46%	38.0	1.47%	10,317.5	24.91%
たまご	0.0	0.00%	0.0	0.00%	0.0	0.00%
魚介類	604.0	1.55%	299.5	11.61%	903.5	2.18%
肉類	308.0	0.79%	0.0	0.00%	308.0	0.74%
パン類	1,802.0	4.64%	587.0	22.75%	2,389.0	5.77%
菓子類	1,478.5	3.81%	0.0	0.00%	1,478.5	3.57%
麺類	1,080.0	2.78%	0.0	0.00%	1,080.0	2.61%
米類	3,182.5	8.19%	0.0	0.00%	3,182.5	7.68%
缶詰・瓶詰め	0.0	0.00%	0.0	0.00%	0.0	0.00%
大豆製品	1,601.5	4.12%	0.0	0.00%	1,601.5	3.87%
乳製品	854.0	2.20%	175.0	6.78%	1,029.0	2.48%
調味料	339.5	0.87%	334.5	12.97%	674.0	1.63%
飲料	961.5	2.48%	0.0	0.00%	961.5	2.32%
その他	4,643.0	11.95%	142.0	5.50%	4,785.0	11.55%
合計	38,842.5	100.00%	2,580.0	100.00%	41,422.5	100.00%

## (3) 容器の重量

容器の重量は、総重量の 3.00%である。

表 2-2-4 容器の重量

項目	直接廃棄100%	直接廃棄50%以上	合計
総重量(g)	38,842.5	2,580.0	41,422.5
容器重量(g)	1,127.0	114.0	1,241.0
割合	2.90%	4.42%	3.00%

#### (4) 容器の種類

容器のあるものが 57.98%、容器のないものが 42.02%である。容器の大半はプラスチック容器である。

表 2-2-5 容器の割合

容器の種類		直接廃棄100%		直接廃棄50%以上		合計	
		重量(g)	割合	重量(g)	割合	重量(g)	割合
容器あり	プラスチック	21,324.5	54.90%	1,657.5	64.24%	22,982.0	55.48%
	紙	1,035.0	2.66%	0.0	0.00%	1,035.0	2.50%
	小計	22,359.5	57.56%	1,657.5	64.24%	24,017.0	57.98%
容器なし		16,483.0	42.44%	922.5	35.76%	17,405.5	42.02%
合計		38,842.5	100.00%	2,580.0	100.00%	41,422.5	100.00%

### 2.3 葛飾区の生ごみ量の推計

平成 28 年度の葛飾区の燃やすごみの量は 78,010t である。今回の調査で得られた組成割合を乗じて推計した年間発生量は、生ごみが 24,304t、内訳は、調理くずが 18,994t、食べ残しが 2,826t、直接廃棄が 2,484t である。

表 2-2-6 葛飾区の生ごみ量の推計

区分		燃やすごみに占める割合	生ごみ量の推計 (t/年)
直接廃棄	直接廃棄100%	2.73%	2,133
	直接廃棄50%以上	0.18%	142
	直接廃棄50%未満	0.27%	209
	小計	3.18%	2,484
食べ残し		3.62%	2,826
調理くず		24.35%	18,994
合計		31.16%	24,304

葛飾区ごみ性状調査 報告書（概要版）

発行：平成 29 年 12 月

委託：葛飾区 環境部 リサイクル清掃課

〒124-8555 東京都葛飾区立石 5-13-1

受託：株式会社 杉山・栗原環境事務所

〒141-0022 東京都品川区東五反田 1-7-11-302